

【 診療科:血液腫瘍内科 】  
【 レジメン登録番号 :IG-126 】

〈Epcoritamab療法〉

【1コース目】

	投与量	投与経路	投与スケジュール (day)									
			1	...	8	...	15	...	22	...	28	
エブキンリ	0.16mg	s.c	○									
	0.8mg	s.c	○									
	48mg	s.c	○ ○									

【2～3コース目】

	投与量	投与経路	投与スケジュール(day)							
			1	...	8	...	15	...	22	28
エブキンリ	48mg	s.c	○		○		○		○	

【1コース期間】  
28日間

【適応癌種:大細胞型B細胞リンパ腫、濾胞性リンパ腫】

【時期:術前、術後、手術不能・進行・再発】

【休薬・減量に関する要件】

項目	基準	減量内容	休薬時の再開基準

投与プロトコール

【1コース目】

day1,8,15,22		
Rp	薬剤名	投与経路(速度)
Rp.1※1	アセトアミノフェン1000mg ボラミン4mg デキサメタゾン16mg	30～120分前
Rp.2	エブキンリ ※投与量は上記参照	s.c

day2～4, 9～11, 16～18, 23～25		
Rp	薬剤名	投与経路(速度)
Rp.1	デキサメタゾン 16mg	p.o.

【2～3コース目】

day1,8,15,22		
Rp	薬剤名	投与経路(速度)
Rp.1	エブキンリ 48mg	s.c

【4～9コース目】

day1,15		
Rp	薬剤名	投与経路(速度)
Rp.1	エブキンリ 48mg	s.c

【10コース目以降】

day1		
Rp	薬剤名	投与経路(速度)
Rp.1	エブキンリ 48mg	s.c

【参考文献:エブキンリ皮下注添付文書、適正使用ガイド】

【備考※1:1コース目でサイトカイン放出症候群(CRS)がグレード1以下であれば2コース目以降のデキサメタゾンの予防投与はしなくてよい。】

【備考2:本剤投与によるサイトカイン放出症候群及び腫瘍崩壊症候群を予防するため、本剤投与時は水分補給を十分に行うこと。】

【備考3:以下の日数を超えて投与遅延があった場合は、サイトカイン放出症候群を軽減するために1サイクル目の投与方法に戻して再び投与を再開すること。その後は予定されていた次の投与サイクルの1日目から投与を再開すること。】

0.16mgと0.8mgの投与間隔が8日を超えた場合、0.8mgと48mgの投与間隔が14日を超えた場合、48mgの投与間隔が6週間を超えた場合

【備考4:繰り返し皮下投与する場合、特に週1回投与(1から3サイクル目)では、左右の大腿部、腹部などに交互に投与するなど同一注射部位を避けること。】